

| | |
|--------|--|
| 課題名 | 設計競技会に参加する 4 ファンディ湾に浮かぶ「海原の庵」 |
| 指導教員 | 門馬 進 教諭 |
| 研究の目的 | 古来人々は大自然の中に住まい、その激しさや荒々しさと闘い、また恵みを受けて生きていた。現代の都市では、人々は自然の脅威に晒されず、その繋がりを絶って日々の生活を送っている。しかし、私たちは未だ大自然の中に住む憧れや恐れを抱いている。そこで、自然の持つ豊かさと厳しさを両方感じられるような家を設計し、提案する。 |
| 参加コンペ名 | 第 1 3 回シェルターインターナショナル学生設計競技会 課題「大自然の家」 出題 西沢 立衛 提出期限 7 月 2 5 日 都市に住む現代人のための、大自然の豊かさと厳しさを感じられる家。 |
| コンセプト | 干満の差が世界一であるカナダのファンディ湾、その潮位差は最大 1 5 メートルに及ぶ。そこに高さ 1 8 メートルのあずまやを建てる。潮位の変化に連動するように、床は柱に固定しない。干潮から次の干潮までの 1 2 時間の間、人間社会から遮断され独りで過ごす。都市に住む人間が海の真ん中で、太陽と風と波をダイレクトに感じながら、自分自身を観照するための場。 |
| 考察 | まず、強度の問題が出てくる。高さから考えて、おそらく波の満ち引きや風の力ですぐに壊れてしまう。補強しようと思えば、屋根の頂点からワイヤーを四方に張ることなどが出来るが、あえてそれはしない。むしろ、壊されてしまうことによって大自然の厳しさを直に感じられる。 |
| 感想 | コンセプトを出すまでが辛かった。最初は別のコンペに参加しようとして、毎日何も考えが浮かばず不安だったが、「潮位に連動する家」を思いついてからはとにかく想像することで忙しくなった。課題研究をやっている期間はとても充実していた。競争の厳しさも味わえた。これほど自由に自分の考えを作品として表せたことは、良い体験だったと思う。この経験を、今後の「ものづくり」に活かしていきたい。 |

